

授業概要

国際関係論は、世界の誰もが安心・幸せに暮らせる社会の構築を目指す学問といえます。国際社会の歴史、複雑な国際関係を理解するための理論、さまざまなアクター（構成員）とその役割、現在わたしたちが抱える諸課題について講義します。またシミュレーションゲームでは、授業で学んだ知識を生かし国際社会のダイナミズムを実感しましょう。

授業計画

第1回	ガイダンス 授業の目的、進め方、
第2回	国際社会の成立と変容① 近代国際社会の成立～第一次世界大戦
第3回	国際社会の成立と変容② 第二次世界大戦と冷戦期の国際社会
第4回	国際社会の成立と変容③ ポスト冷戦期～9.11以降の国際社会
第5回	国際関係の理論：リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム
第6回	国際組織、地域組織、非国家アクター①
第7回	国際組織、地域組織、非国家アクター②
第8回	地球規模の課題：気候、難民
第9回	外交・対外政策決定過程、外交の役割：交渉・協力・対立
第10回	国際政治経済：第二次大戦後の世界経済の仕組みと自由貿易体制
第11回	格差問題と開発：支援・援助活動、南北問題と南南問題
第12回	安全保障：伝統的安全保障と人間の安全保障
第13回	平和・人道介入 PKOの展開
第14回	グループワーク（シミュレーションゲーム）
第15回	全体の復習 質疑応答
第16回	期末試験（筆記、持ち込みなし）

到達目標

- ・ 国際関係論の主要な理論や概念を学び、国際社会における様々な事象を的確に理解できる。
- ・ 国際社会の諸問題を客観的にとらえ、背景・メカニズムを把握する力を身に付け、自らの言葉で解決策を学術的に提示できる。

履修上の注意

基本的には講義形式で行うが授業中に履修者に発言・発表を求めることがあります。取り上げてほしいテーマのリクエストがあればできるかぎり応じる予定。

予習・復習

予習：授業のテーマに関連する語句や事項をあらかじめ調べ、質問に答えられるようにしておくこと。
復習：授業の要点をまとめ、内容に関連した書籍・文献を自主的に読み理解を深めておくこと。

評価方法

平常点 30%（ミニッツペーパーおよびシミュレーションゲームでの評価。詳細は授業中に説明します）
期末試験 70%（授業の理解度を問います）

テキスト

『国際関係論〈第4版〉』佐渡友哲ほか 弘文堂（978-4-335-00255-7）